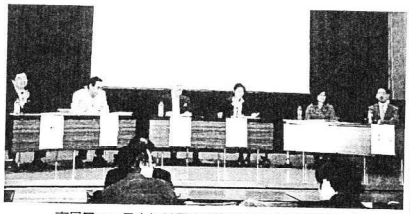
横浜で全国大会開く

人と環境にやさしい交通をめざす

次世代型路面電車のLRT（ライト・レール・トランジット）を中心に、環境負荷軽減につながるまちづくりや都市内・地域交通の在り方を官民と研究者、愛好家が一つのテーブルに着いて話し合う「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会in横浜」が6日、横浜市保土ケ谷区の横浜国立大学で開かれた。実行委員会と横浜国大が共催する全国大会は2005年（平成17年）の宇都宮、昨年の京都に次いで3回目で、交通政策提言、最新海外事情、技術開発などテーマ別に80件近い研究発表のほか、市民フォーラムや新しく始まった「LRTアンドBRT（パートートーバス高速輸送システム）デザインコンテスト」、クイズ大会、写真展など一般市民にも発しめる催しが数多く用意され、約450人が参加した。大会の模様を紹介するとともに、都市交通研究家の服部重敬氏に全体的な印象を寄稿してもらった。

（上里　夏生記者）



市民フォーラムには国交省をはじめとする行政から事業者、研究者、一般市民までが参加しまちづくりと公共交通の在り方を考えた

LRTなどテーマに

実行委の中核は、「横浜にLRTを走らせる会」（横浜カーフリーデー実行委員会）「横浜の公共交通活性化をめざす会」の3団体。このうち、走らせる会は2003年に発足し、メンバー約150人で活動。「異国情緒にあふれ歴史的建築物も点在する横浜のまちに似合うのはLRT」を合言葉に、LRTの普及啓発活動に取り組んでいる。

もう一つのカーフリーデー実行委は、欧州で始まった「クルマのない日」の国内への普及に努め、市内中心部の横浜公園周辺や日本大通りを歩行者専用にした今年9月23日の5回目のカーフリーデーでは約3万人を集めた。

走らせる会の活動ではユニークなのが、LRTが通学長は、「LRTは電気を動力源とすることで、エネルギーを集中管理できるのがマイカーやバスとの最大の違い。エネルギーの集中管理と利用は、全体効率化に加えて地域特性に配慮するにもっとつながる方法が最も有効な手段で、LRTの導入は低炭素・脱石油社会実現に向けた早道ともいえる」と話す。

地元を代表してあいさつした横浜市の阿部守一副市長は、「市民フォーラムのパネルディスカッションに踏み出すためにも、横浜にどのような交通がふさわしいかを考えるきっかけとなる。横浜の国民的課題とクローズアップされ、われわれは交通を考え直す絶好の機会を得たと肯定的に受け止めたい。次のステップ